

文学研究科修士課程 文学専攻（2015年度以降 第1学年次入学者適用）

区分	科目名	単位数	1) 知識		2) 研究技能		3) 独創性		4) 総合力		科目概要（2022年度シラバスより）
			①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうち、いずれか一つの専攻領域に関する高度な専門的知識を持っている	②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうちで専攻する領域以外において、一定の専門的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な言語能力を備えている	②研究遂行に必要な資料の収集とその分析の能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専攻領域ならびに関連領域について、独自の観点から研究テーマを設定し、自ら研究を遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	②専攻領域において、先行研究の状況や成果を正確に把握し、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自性をもったものとして総合し、修士論文としてまとめる能力を備えている	①専攻領域における先行研究の状況や成果を正確に把握し、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自性をもったものとして総合し、修士論文としてまとめる能力を備えている	②自らの研究を、専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせ、多角的な視点をも有するものとする能力を備えている	
基礎科目	文学研究基礎	2	○		○		◎				本科目は、テキストに収録された個々の論文によって本専攻における研究の具体例を示し、日・中・英米の3学系における言語・文学研究の共通性および所属学系以外の学系に特徴的な研究分野・研究方法を学修する。受講生は後者についてのレポート作成を通して、今後の研究と修士論文作成のために幅広い知識と視野を獲得することが可能となる。・日本文学系における研究分野とその基盤となる考え方や研究方法の特徴を、具体的に論文を取り上げて解説する。・中国文学系における研究分野とその基盤となる考え方や研究方法の特徴を、具体的に論文を取り上げて解説する。・英米文学系における研究分野とその基盤となる考え方や研究方法の特徴を、具体的に論文を取り上げて解説する。
	日本文学研究基礎	2	◎				○				本科目では、日本語および日本語によって表現された文学作品や思想文献、あるいは文化事象などを主たる研究対象とし、さらにはその背後にある歴史や社会状況をも考察の対象とする。内容としては、具体的に論文を取りあげて、その論文の研究の道筋と論理展開を学修することによって、資料・文献の収集方法と取り扱い方の技能を獲得する。また、各自の専門分野において研究テーマの基礎的な見直しを立て、修士論文執筆のための知識と視野を獲得することを目標とする。
	中国文学研究基礎	2	◎		○	◎					この科目は講義形式（解説）で行う回と、それらを踏まえて演習形式（実践）で行う回との2形態によって構成する。まずは、中国語学・文学を学修するにあたり、必要とされる学術上の基礎的知識について、テキストや参考資料を用いて講義する。講義がひととおり終了した時点で、受講者に対し、研究テーマに関連する文献を実際に収集・整理し、それらを分析・総括したうえで、報告資料（レジュメ等）を作成するよう指示する。その後、受講者は作成した資料を用いて報告を行い、それぞれの報告の内容について討論し、最後に、そこでの議論を反映した形でレポートを作成する。如上の一連の取り組み（実践）が進行してゆく過程において、各アプローチに対する講評や補足を適宜行う。
	英米文学研究基礎	2	◎		○	○	○	△			まずはじっくりと一つ一つの言葉のニュアンスを正確に把握し、作品を丁寧に精読していく。その上で、作品解釈の作業に入っていく。その次に、この作品についての先行研究を調べ、まとめてもらう。最後に、自分の解釈や先行研究のまとめを文章にして提出してもらうが、その際書式等のルール（MLAの書式）を厳格に守って書いてもらうことになる。
専攻科目	日本文学系	日本文学特殊研究1	2	○		◎		△			中古文学研究の方法論を探究する。文学研究が学問である以上、探求のための専門的な方法論や理論が存在する。研究者や文学を教える教員を目指すならば、そうした方法論に自覚的に自身の研究を進める他、自分とは異なる方法論を取る研究の批判的な受手であることが望まれる。本講義では、中古文学研究における研究方法を取り上げ、関連する実践例を批判的・分析的に読み解く。そうすることで、受講者各人が自身の研究を深化させ、厚みのある論を展開するためのヒントを得てほしく思っている。講義では、教員が研究方法について概説する回と、受講者が課題論文を読んで方法論について分析し、まとめたものを発表する回を繰り返すことになる。また、学期の最後に、各受講者が現在取り組む課題、あるいは、直前に解決した課題について方法論に留意した発表を課す。
		日本文学特殊研究2	2	○		◎		△			鎌倉時代中期に成立したとされる平家物語には多くの諸本がある。古典作品に諸本の多いことは珍しくないが、平家物語はその差が非常に大きい。本講義では平家物語巻一、清盛の出世から、主要な五つの諸本（延慶本、長門本、『源平盛衰記』、屋代本、寛一本）を比較し、その生成過程を検討する。平家一族の盛衰を描いたとされる平家物語が、冒頭にどのような物語を配置したのかということについても考える。
		日本文学特殊研究3	2	○		◎		△			『小説神髓』を現代語訳し、注釈をつけていく過程で、近代文学史の問題を考察する。
		日本文学特殊研究4	2	○			◎				日本近代の個人作家全集の歴史と問題点について検討する。日本近現代文学研究において、個人作家全集は必要不可欠である（なかには全集の出版されていない近現代作家もいるが）。個人作家全集は、その作家の書いたすべての文章が読めるばかりでなく、その時点での研究成果が反映されている。また、出版後の研究の礎となるものでもある。各自の研究において個人作家全集を活用できるようにしよう。
		日本語学特殊研究	2	○			◎				各自、日常の言語活動中の日本語の問題、修士論文のテーマの中の日本語の問題、任意の日本語の問題等について調べ、レジュメを持ち寄り、それについて全員で討論する。
		日本文学演習1	2	○			○		○	◎	天智天皇崩御後、672年に起こった壬申の乱は、皇位継承をめぐる争いを2分した戦乱であった。『日本書紀』巻27「天武天皇」はその壬申の乱について、天智天皇の崩御から大友皇子の自経と大海人皇子の勝利に至るまで、詳細に記述されており、『壬申紀』とも呼ばれる。また、『万葉集』に収録される柿本人麻呂「高市皇子挽歌」には、壬申の乱の様子が描写されている。本授業では、この二つを演習形式で読む。『日本書紀』における壬申の乱の編纂がどのようになっているのか、また柿本人麻呂がどのように描写しているのかを分析し、日本古代における歴史編纂と和歌創作それぞれの特質と関わりについて、その一端を考察する。
		日本文学演習2	2	○			○		○	◎	『源氏物語』は、和歌・作中人物・諸本・歴史的背景・重厚な注釈史等、様々な観点から分析・考察が可能な研究対象である。本演習では、整理テキストに恵まれておらず、通常鑑賞の対象にならない河内本系統の代表的な諸本である尾州家河内本を底本として、翻刻・諸本対照・整理テキスト作成・口語訳・注釈書史の整理等基礎的な作品分析手法の力量の充実を図り、受講生各人が問題を設定して自由に鑑賞を展開してもらう。本ゼミで得たアイデアを論文として刊行出来るまで突き詰めてもらえれば幸いである。
		日本文学演習3	2	○			○		○	◎	18世紀後半上方で出現した初期読本（都賀庭鐘『英草紙』、上田秋成『雨月物語』等）は、談義本のスタイルを継承しつつ、外形的には青色系の表紙・半紙本5巻5冊、内容面では問答体と世話物の恋愛譚とで構成された短編集という特性を共有している。飯倉洋一氏の一連の論考が明らかにしているように、上記の特性は『新增書籍目録』（宝暦4・1754年）に初出の書籍の分類項目である「奇談」に含みこまれた内容である。近世中期の文芸の世界において「奇談」はジャンルとして明確に意識されている。この授業では、上方読本の形式と内容を江戸に持ち込んだ東男子著・十返舎一九『（中古）奇談』雙葉草』（半紙本5巻5冊、江戸上総屋利兵衛・中川新七版、享和2・1802年正月刊）を講読し、同時代の文芸におけるジャンル意識を再検討する一助とした。
		日本文学演習4	2	○			○		○	◎	日本近現代文学作品と掲載誌との関わりについて検討する。多くの文学作品は、まず雑誌に掲載され、その後一定の期間を経て単行本に収録される。ということは、文学作品の大半は雑誌社からの依頼に応じて書かれていると考えられる。そのとき作家は、依頼のあった雑誌の傾向やネームバリューを意識しながら作品を書くだろう。また、雑誌発表された作品を単行本に収めるときに本文に手を加えるケースもある。雑誌というメディアが文学作品に与える影響について、さまざまな角度から検証したい。
		日本語学演習	2	○			○		○	◎	各自、日本語学の分野の研究論文を持ち寄り、それについて全員で討論する。
		中国文学特殊研究1	2	◎		○					欧陽脩の散文を読みます。授業は出席者に分担して訳注稿の作成と口頭発表を担当してもらいます。自分の担当でない回でも本文・注釈を熟読したうえで出席し、質疑応答に参加してください。
		中国文学特殊研究2	2	◎		○					中国近現代文学研究の基本文献やさまざまな研究視点を概説する。 ※2020年度シラバス
		中国文学特殊研究3	2	◎		○					テキストに沿いながら、中華人民共和国建国時期から文革期までをざっと確認したのち、文革終息後から始まった新时期文学を中心に、どのように中国文学が変化してきたのか、その過程を探っていく。
中国語学特殊研究	2	◎		○					漢字における諸問題を考察する。		
中国思想特殊研究	2	◎		○					当時の思想的趨勢、仏教経典の翻訳事情等にも注意を払いつつ、謝靈運の思想を理解するために、「弁宗論」を講読する。		
中国文学演習1	2	○			○	◎	△	△	錢鍾書『宋詩選注』所収の詩を読みます。授業は出席者に分担して訳注稿の作成と口頭発表を担当してもらいます。自分の担当でない回でも本文・注釈を熟読したうえで出席し、質疑応答に参加してください。		
中国文学演習2	2	○			○	◎	△	△	中華人民共和国成立以降の中国現、当代文学史著作をとりあげ、それらの記述の変化を検討する。この作業を通じて各時期の思潮、時代精神と文学作品、文学批評との関係を考察する。 ※2020年度シラバス		
中国文学演習3	2	○			○	◎	△	△	文革終息後の代表的な作品を閲読してゆくことで、中国新时期以降の文学への理解の促進を行う。なるべく多くの作品に触れるようにするため、短編作品を中心に取り扱い、具体的な作品を通して、中国当代文学への理解を深めてゆく。		
中国語学演習	2	○			○	◎	△	△	北京音系における諸問題を考察する。		

区分	科目名	単位数	1) 知識		2) 研究技能		3) 独創性		4) 総合力		科目概要 (2022年度シラバスより)
			①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうち、いづれか一つの専攻領域に関する高度な専門的知識を持っている	②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうちで専攻する領域以外において、一定の専門的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な言語能力を備えている	②研究遂行に必要な資料の収集とその分析の能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専攻領域ならびに関連領域について、独自の観点から研究テーマを設定し、先行研究の状況を正しく把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている	②専攻領域において、独自の観点から研究テーマを設定し、先行研究の状況を正しく把握し、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自性をもったものとして総合し、修士論文としてまとめる能力を備えている	①専攻領域における先行研究の状況や成果を正確に把握し、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自性をもったものとして総合し、修士論文としてまとめる能力を備えている	②自らの研究を、専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせ、多角的な視点をもつものとする能力を備えている	
主専攻科目	中国思想演習	2	○			○	◎	△		△	本授業では、六朝時代の東晋期を代表する思想家、慧遠 (334-433) の三世報応の思想を扱う。人間における行為の善悪が、どのように後にその人に反映するのか、あるいはしないのか、については古来より種々論じられてきた。そこで廬山の慧遠の「三報論」「明報論」「沙門不敬王者論 形尽神不滅 第五」により、慧遠がこの問題をどのように理解し解決しようとしたのかを、六朝思想史とも関連付けながら考察する。
	英米文学特殊研究 1	2	◎		○	△	△	△			T.S.エリオット (T.S. Eliot, 1888-1965) は、20世紀最大の詩人、もしくはもっとも影響力のあった詩人である。『荒地』(1922)をはじめとするモダニズムの代表的作品を発表する一方で、批評活動でも活躍し、詩人論、詩劇論、文化論など多彩である。この授業では、有名な「伝統論」が展開される「伝統と個人の才能」(1919)からはじめ、『キリスト教社会の理念』(1939)や『文化の定義のための覚書』(1948)を中心に、エリオットの文化論について講義する。重要な箇所については、原文を精読する。
	英米文学特殊研究 2	2	◎		○	△	△	△			1912年、ハーヴァード大学の大学院生であったT.S.エリオット (T.S. Eliot, 1888-1965) はエミリー・ヘイル (Emily Hale, 1891-1969) に出会い、恋に落ちたと言われる。1914年、エリオットはオックスフォード大学へ留学するためにイギリスへ渡る。1915年、エリオットは、イギリスで出会ったヴィヴィアン・ヘイウッド (Vivienne Haigh-Wood, 1888-1947) という女性と突然結婚するが、ヴィヴィアンとの結婚生活は不幸なものであった。その後、エリオットはエミリーに再会し、1930年代、1940年代を通して、エミリーがイギリスを訪れたとき、もしくはエリオットがアメリカに戻ったときに、二人は頻りに会っていた。1947年にヴィヴィアンが死去するが、エリオットはエミリーでなく、38歳年下の秘書ヴァレリー・フレッチャー (Valerie Fletcher, 1926-2012) と1958年に再婚する。エミリーはエリオットから受け取った千通を超える手紙をプリンストン大学図書館に寄贈し、2020年まで公開されないことになっていたが、その公開にあわせてセラ・フィッツジェラルド (Sara Fitzgerald) がエミリーとエリオットの物語を小説The Poet's Girlとして出版した。フィッツジェラルドが書いているのはあくまでもフィクションであって、伝記ではないが、この小説を手掛かりに、エリオットの伝記的資料や詩作品と合わせて二人の関係について考えてみたい。
	英語学特殊研究	2	◎		○	△	△	△			テキストの一部と予習用のNotesを配布する。予習用プリントに従ってとくに英文法の観点から十分に予習して出席する。授業は演習形式で進める。
	英米言語文化特殊研究	2	◎		○	△	△	△			私たちが日々使うことば (話し言葉および書き言葉) の意味は、その時のコンテキスト (context: 文脈) に応じて変化する。例えば、"It's cold today, isn't it?" というひとことであっても、コンテキストに応じて様々なメッセージを伝達することが可能である。 (1) 本授業では、ディスコース (discourse: 談話) を分析するためのアプローチである語用論 (pragmatics)、会話分析 (conversation analysis)、相互行為の社会言語学 (interactional sociolinguistics) に関する英語の文献を精読しながら、私たちが日常生活においてやりとりしている会話、読み書きしている文章には、どのような意味の伝達と解釈のメカニズムが存在するのかについて考える。 (2) この視点に基づいて、上記手法を用いながら、実際の自然談話における言語使用 (映画、ドラマなど) のデータを分析し、相互行為のメカニズムについて討論することにより社会における言語使用に迫る。 (3) 上記手法にとって重要な原著の一部を読むことにより、原著を読むことに慣れる訓練も行う。 ※2021年度シラバス
	英米文学演習 1	2		◎		○	△		○		本科目では、テキストの生成や伝記的、実証的事実を踏まえつつ、アメリカ文学のテキストを読む。丁寧なテキスト読解を第一の目標とするが、その行為自体を問い質す批評性も身につけたい。また、受講生の口頭発表をもとに、学生相互、あるいは担当教員との質疑応答を展開させ、アメリカ文学研究上の諸問題を考察する。受講者には、修士論文のアイデアを研究発表にまとめる作業を通じて、研究上の新たな進展の契機とすることが期待される。
	英米文学演習 2	2		◎		○	△		○		本科目では、テキストの生成や伝記的、実証的事実を踏まえつつ、アメリカ文学のテキストを読む。丁寧なテキスト読解を第一の目標とするが、その行為自体を問い質す批評性も身につけたい。また、受講生の口頭発表をもとに、学生相互、あるいは担当教員との質疑応答を展開させ、アメリカ文学研究上の諸問題を考察する。受講者には、修士論文のアイデアを研究発表にまとめる作業を通じて、研究上の新たな進展の契機とすることが期待される。
	英語学演習 1	2		◎		○	△		○		認知言語学の代表的な文献を選んで、演習形式で授業を進めるので、準備が必要である。文献で言及されている研究はできる限りオリジナルを入手して、その概要を把握しておくことが求められる。また、文献で用いられている英語のデータに関して、その信憑性をコーパスデータに基づいて検証しておくことがしばしば必要となる。 ※2021年度シラバス
	英語学演習 2	2		◎		○	△		○		認知言語学の代表的な文献を選んで、演習形式で授業を進める。相当程度の準備が必要である。文献で言及されている研究はできる限りオリジナルを入手して、その概要を把握しておくことが求められる。また、文献で用いられている英語のデータに関して、その信憑性をコーパスデータに基づいて検証しておくことがしばしば必要となる。
	英米作家研究 1	2		◎		○	△	△	△		Jane Austen, Pride and Prejudiceを歴史や思想史などの流れの中に置いて読んでいきます。文学理論にも目配りしながら、文学テキストの解釈の方法もあわせて学びます。 ※2017年度シラバス
英米作家研究 2	2		◎		○	△	△	△		ハーマン・メルヴィルの短編に焦点をあてて、その短編をどのように読めばおもしろく読めるのかを、実際に短編を様々な観点から読むなかで例示する。これは同時に、精読の面白さを院生に認識させ、精読の重要性を院生に認識させることでもある。 ※2017年度シラバス	
専攻共通科目	日本語表現史研究	2		◎		○	△				日本語表現は漢籍と深い関わりを持っている。表記手段として漢字を得て以来、日本語は漢籍の表現を受容し、その影響を受けながら多くの文学を成立させ、文化を育んできた。本授業では、主に古代における漢籍の受容を考察し、漢籍の表現が日本語表現にどのような影響をもたらしてきたのか、それによって日本語表現がどのような変容を遂げてきたのかを考察する。
	現代中国研究	2	◎	◎		○					本授業では、中国現代の代表的な文学者である魯迅とその文学の諸問題について講義する。現代中国は、魯迅文学を抜きにしては語れない。そして日本や東アジアの現代も、魯迅文学を座標軸として展望すると、その個性と共通性がよく見えてくるものである。授業では、それぞれの具体的な問題を取り上げ、関連作品・事柄も含めて解説する。魯迅の学習を通して、中国近代思想と文学に対する認識を深める。
	日英対照言語学研究	2	△	○							村上春樹の翻訳で知られる著名な翻訳家 Jay Rubin が日本語と英語の違いをどのように捉えているのかを通じて、日英語の類似点や相違点を学ぶ。外国語を学ぶことで始めて自国語がわかると言われるが、英語の母語話者が日本語をどのように理解したかを知ること、日本語の母語話者は、逆に英語がどのような言語であるかを認識できる。
	書道研究	2		◎		△			○		古来、中国では、教養の間では書をよめることは必須の条件とされ、また能書の人には尊敬された。そして、日本でも、古く漢字を輸入して用い、また漢字から仮名を作って用いてきたが、やはり手跡の美しいことは尊ばれたのである。本科目は、主に日本書道史・日中書道交流史の中から、個々の研究テーマを取り上げ、講義・演習を行う。後半、その書美を体験させるべく、実技を加えることにより、理論と実技のバランスのとれた人材の育成を目指す。
	漢文学研究	2	◎			○			△		弘法大師空海の開いた高野山は、治安三年 (1023) の藤原道長による参詣を契機として多くの貴賤を集めた。その記録として漢文で記された参詣記が多く作成されている。本講義では室町期の代表的文化人であった三条西実隆による大永四年 (1524) の参詣を記録した『高野真名記』を取り上げる。実隆は漢文による『高野詣真名記』の他に、仮名で記した『高野参詣日記』も残しており、両書と比較することでそれぞれの特徴について考える。
	異文化接触研究 (中国)	2	◎	◎		○					「ことば」には、それを話す人々の文化や考え、ものの見方などが様々な形で反映されるものである。この授業では、「中国語」ということばを通して、中国語母語話者がどのようなものか、その考え方や出来事の捉え方をしているのかを考え、「中国人」や「中国文化」についての理解を深める。
	異文化接触研究 (英米)	2	△	○							日本と英米両国との関わりを歴史をまずは把握する。その後、両国との交流についていくつかのテーマに分けて考察する。映画等も使用し、日本の英国、米国に対する見方、またその逆からの視点について考察する。

区分	科目名	単位数	1) 知識		2) 研究技能		3) 独創性		4) 総合力		科目概要 (2022年度シラバスより)
			①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうち、いづれか一つの専攻領域に関する高度な専門的知識を持っている	②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうちで専攻する領域以外において、一定の専門的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な言語能力を備えている	②研究遂行に必要な資料の収集とその分析の能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専攻領域ならびに関連領域について、先行研究の状況を正しく把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている	②専攻領域において、独自の観点から研究テーマを設定して研究を遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	①専攻領域における先行研究の状況や成果を正確に把握し、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自性をもったものとして総合し、修士論文としてまとめる能力を備えている	②自らの研究を、専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせ、多角的な視点をも有するものとする能力を備えている	
専攻科目	文学研究指導演習1 (日本文学系)	1	○			○		◎		○	学生は、1年次に「基礎科目」の履修と指導教員の指導を通じて修士論文のテーマを決定し、2年次から修士論文の執筆に入る。本科目においては、修士論文のテーマとその全体構想および修士論文の具体的構成について発表を行い、これに対して隣接諸分野の専門家である複数教員の指導を受け、研究の視野を広く保つことを目的とする。指導の内容は、研究の観点や研究方法の妥当性、関連知識の必要性、関連資料の指摘等及び、学生はこれをもとに修士論文の方向と内容について検討を加えてゆくことになる。
	文学研究指導演習1 (中国文学系)		○			○	◎		◎		
	文学研究指導演習1 (英米文学系)				△	○	○	◎	○	○	
	文学研究指導演習2 (日本文学系)	1	○			○		◎		○	
	文学研究指導演習2 (中国文学系)		○			○	◎		◎		
	文学研究指導演習2 (英米文学系)				△	○	○	○	◎	○	
関連科目	日本語文化研究	2		○		◎					現在、日本各地でさまざまな方言が話されている。それらはどのように変化して今の形となったのか、また、ことばはある地域から別の地域へとかに広がっていったのかを、江戸時代の方言辞典『物類称呼』とそれ以降の方言に関する記述や調査とを対照することで考察・検討する。
	中国近現代思想研究	2	◎	◎	○	○					本授業では、近現代中国において、各種の思想が複雑に絡み合っている状況について講義する。当時の混沌たる思想界の様相を整理するため、「救国意識の目覚め」「伝統思想への反感と葛藤」「国民国家の主体者形成」という三本の軸を設定し、多元的な視座から分析・把握に努める。毎回の授業では、その当時、思潮を形成するに際しておおいに影響を及ぼした政治・学術著書、あるいは同上の論文を主たる材料として採り上げ、読解に取り組みと同時に、当該文献の背景や後世への影響などについても考察する。
	英語教育研究	2	△	○	△	△					Over the years, there has been an increasing emphasis in English education in Japan on active learning, self-expression, communication skills, and cross-cultural understanding, with the basic goal of giving students practical communicative competence in English. The development of language learner autonomy (LLA) is perhaps one of the most important elements for successfully achieving this goal. Learner autonomy is a multi-faceted construct, and researching and promoting it requires a multi-disciplinary approach. In this course, by reading and sharing relevant literature, we will examine what LLA is, why it is important, and how we as language educators can promote and develop it in our learners. 日本の英語教育では、英語による実践的なコミュニケーション能力を身につけることを基本目標として、アクティブラーニング、自己表現、コミュニケーション能力、異文化理解などを重視されるようになってきている。この目標を達成するために、自律学習者育成は、おそらく最も重要な要素の一つである。学習者の自律性 (学習者オートノミー = language learner autonomy = LLA) は多面的な構成概念であり、その研究・推進には学際的なアプローチが必要である。この授業では、LLAとは何か、なぜそれが重要なのか、そして私たち言語教育者がどのようにLLAを促進し、発達させることができるのかを、関連する文献を読みながら考察していく。
	書道文化研究	2		◎		○					古来、中国では、教養の間では書をよめることは必須の条件とされ、また能書の人には尊敬された。そして、日本でも、古く漢字を輸入して用い、また漢字から仮名を作って用いてきたが、やはり手跡の美しいことは尊ばれたのである。本科目は、主に中国書道史・日中書法交流史の中から、個々の研究テーマを取り上げ、講義・演習を行う。後半、その書美を体験させるべく、実技を加えることにより、理論と実技のバランスのとれた人材の育成を目指す。
	日本文学研究	2		○	◎						『小説神髓』(下巻)を読みながら、現代語訳し、注釈を行う。
	中国文学研究	2	◎	○	◎						この講義では1930年代の左翼文学運動に注目し、当事者である夏衍氏による回顧録『懶尋旧夢録』(中国語原文版)を選読することを通じて、「左連」(中国左翼作家連盟)の設立(1930)から解散(1936)までの経緯を辿り、当時の思想的・社会的背景を学ぶ。
	英米文学研究	2	△	○	△	△					本授業では、文学研究における様々なアプローチを解説しながら、具体的な英米文学の作品をとりあげ、実際に受講生に作品解釈を行ってもらう。純粋な客観科学とは違い、文学において作品解釈には唯一の正しい答えがあるわけではない。各作品はその作品を取り巻く時代や地域といった様々なコンテキストに左右されるし、各読者もそれぞれの主観を免れることはできない。作品解釈とは、そういったコンテキストを含めて作品を読み解いていくことであり、読者も含め、作品に描かれている人間性を理解することなのである。